

## 経済産業部

仕事の

窓

## 石油製品の品質確保に向けて

八月二十八日から新たな販売規制開始

高濃度アルコール含有燃料はクルマの安全にNO！  
環境にNO！

あなたのクルマに入れると危ない、高濃度アルコール含有燃料。燃料系部品を腐食・劣化させるため、販売規制されます。

このたび、揮発油等の品質の確保等に関する法律（以下「品確法」）の改正によって、いわゆる高濃度アルコール含有燃料は販売禁止となりますが、規制の背景・内容、さらには注意すべきポイントをご紹介します。

## 高濃度アルコール含有燃料について

いわゆる高濃度アルコール含有燃料とは、ガソリンやナフサに対してアルコール類及びエーテル類を大量に（全体の五〇％を超える割合で）混ぜた燃料で、通常の自動車燃料として販売されているものです（※）。

※沖縄管内では、現在まで高濃度アルコール含有燃料販売業者は確認されていません。

この高濃度アルコール含有燃料については、平成十三年六月に発生した車両火災事故を契機として、平成十三年九月に、経済産業省及び国土交通省が共同で、機械工学、金属腐食等の専門家からなる調査委員会を設置し、高濃度アルコール含有燃料を通常の自動車に使用した場合の安全上の影響について検証試験を開始しました。



燃料系統部品の腐食を原因として、火災が起きた事例

この検証試験では、自動車の運行時に自動車内部で燃料系統部材がさらされる状況に相当する試験条件で、実際に自動車部品として使用されている材料（ゴム、樹脂、アルミニウム）に対する影響を検証しました。この結果、高濃度アルコール含有燃料は、実際に自動車に使用されているゴムや樹脂の

強度低下・機能低下を招くとともに、アルミニウム材料を腐食させることが確認されました。

これらの検証実験を踏まえ、同調査委員会では、平成十四年十月に、「アルコールが想定されていない通常の自動車に高濃度アルコール含有燃料を使用することは、自動車の燃料系統部品を腐食・劣化させる危険性が存在し、安全上問題であると結論づけられている」との最終評価を明らかにしています。

この最終評価を受け、総合資源エネルギー調査会の燃料政策委員会において審議が行われ、消費者保護の観点から、高濃度アルコール含有燃料について、品質・規制対象とするともに、既販車の安全性を前提としたアルコール添加の許容値を設定することが必要である旨、平成十五年二月に小委員会として報告がなされました。

また、環境省が行った調査では、高濃度アルコール含有燃料を使用すると、大気汚染の原因となる窒素酸化物（ $\text{NOx}$ ）が増加する傾向が確認されています。なお一般に、アルコールは発熱量がガソ

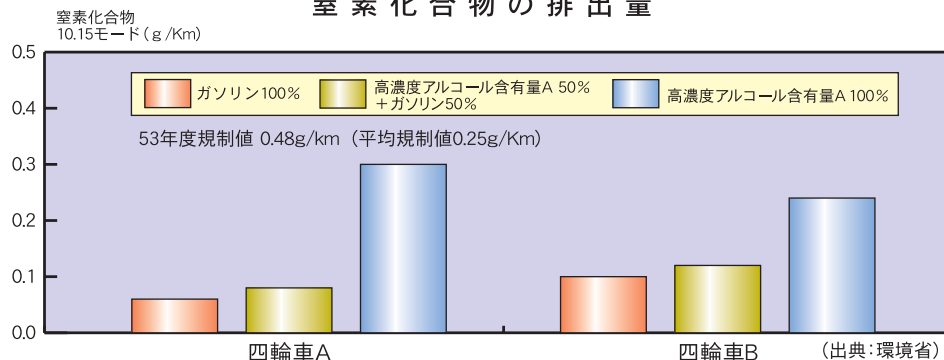
デリバリーパイプの腐食状況 98年型 走行距離 約17,000Km





## 経済産業部

### 窒素化合物の排出量



高濃度アルコール含有量A使用時の窒素化合物の排出量は、ガソリン時に比べ、悪化する傾向を示した。

リンの六割程度しかなく、大量に混ぜて使用した場合、エンジンの出力および燃費の大幅な低下が生じています。

以上のような事実と検討を踏まえ、経済産業省は、消費者の安全確保を図り、必要な安全面及び環境面での規制を実施する観点から「改正品確法案」を国会に提案しました。本法案は衆・参両院で全

会一致で可決され、これにより高濃度アルコール含有燃料についても、ガソリンや軽油といった自動車燃料と同様に同法の安全・品質規制の対象とされました。併せて、品確法におけるガソリンの強制規格に、我が国における既存の自動車の安全性を前提とした、アルコール許容値(エタノールで三%、含酸素化合物 アルコール類、エーテル類等(全体で含酸素率で一・三%まで))が設けられ、高濃度アルコール含有燃料のような自動車の安全上及び環境面で問題がある燃料の販売は、法律により禁止されることとなりました。

経済産業省としては、販売事業者に対して改正法施行後(本年八月二十八日以降)は販売を中止するように指導して参りますが、消費者の皆様においても、高濃度アルコール含有燃料の安全上の問題点及び環境面での問題点を踏まえて、給油の際には、十分ご注意ください。なお、このような通常の自動車にアルコールを大量に使用した場合の安全上及び環境面での問題点は、アルコールの一般的な物性によるものであり、そのアルコールが石油起源であっても、いわゆるバイオ(生物)起源であっても、何ら変わりませんので、その点もご注意ください。

ます。沖縄管内では、現在、高濃度アルコール含有燃料を販売する事業者は確認されておりませんが、全国ベースでは以上のような自動車燃料を巡る動きがあること、また、それに対応する販売規制が始まることをご認識いただき、今一度クルマに適切な燃料についてご確認いただければと思います。

### 《適切な燃料の確認ポイント》

○ご使用されている自動車に備え付けられている取扱説明書やユーザーマニュアルで指定されている燃料(指定燃料)が何であるかご確認ください。(無鉛プレミアムガソリン、無鉛ガソリン等)

○自動車エンジン及び燃料系統部品は指定された燃料で安全に動くよう設計されています。

○自動車には、取扱説明書等で指定された燃料を必ずご使用ください。

○なお、自動車用燃料であるガソリン(揮発油)は、法律に基づき登録された販売業者が、法律に定められた規格を満たすガソリンを販売するように義務づけられています。

法律に基づき登録された販売業者は、給油所内の見えやすいところ

ろに登録していることを提示することが義務づけられています。また、標準的な品質基準のガソリンを販売する給油所では、計量器にSQマークを表示できることになっていきます。燃料をお求めの際には、SQマークをご参考にしてください。



なお、高濃度アルコール含有燃料の販売規制に関する詳しい情報は、経済産業省資源エネルギー庁ホームページでご確認ください。

<http://www.enecho.meti.go.jp/nenryo/>

また、石油製品の規格等、給油所の運営にあたって不明な点等がありましたら、当局経済産業部石油・エネルギー対策統括官

(☎098-866-0031

内線2933299)までお問い合わせください。